

エコ・エアポート基本計画(2011～2015年度)総括

※1 低騒音型航空機＝成田航空機騒音インデックスにおいてA～Cの低騒音型航空機として分類される航空機で、低排出型、低燃費の航空機
※2 GPU使用率＝供給機会に対する使用率
※3 低公害車＝電気、ハイブリッド、プラグインハイブリッド、天然ガス、燃料電池、クリーンディーゼル、低燃費・低排出ガス認定車（ガソリン、ディーゼル、LPG）
※4 BEMS＝空調、電力、熱源など運転状況の監視・管理とエリアごとのエネルギー消費量の計測を一元的に行い、これらの情報を収集して活用することで空調機などの最適な運転方法を実現するシステム
※5 空港施設＝NAAが管理する空港内外施設
※6 サーマルリサイクル発電＝廃棄物を燃やした熱を回収して発電すること

地球環境への取り組み



取り組みテーマ・取り組み目標	対象	主体	取り組み項目		基準年度(2010年度)	目標(2015年度)	結果(2015年度)	基本計画(2011～2015年度)評価	
								達成	
地球温暖化対策 航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量削減(発着回数1回あたり) エネルギー使用量の削減(発着回数1回あたり) 再生可能エネルギーの有効利用に向けた検討	空港全体	NAA 空港関連事業者(協議会)	NAA及び空港関連事業者が、それぞれ航空機、車両、空港施設において以下の取り組みを実施することで、空港全体のCO ₂ の削減を目指す。		●CO ₂ 排出量 4.88tCO ₂ /回	●航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比10%削減	●CO ₂ 排出量 2010年度比13.9%削減(4.20tCO ₂ /回)	達成	空港からのCO ₂ 排出量の約7割を占める航空機について、新型機材などの導入促進により、燃費効率の良いB787型機などへの更新が進んだことにより、目標を上回る結果となった
	航空機	NAA	①低騒音型航空機の導入促進策(成田航空機騒音インデックスに基づく国際線着陸料制度)の継続 ②固定スポットにおける地上動力施設(GPU)の利用促進 ③誘導路整備による航空機地上走行時間の短縮 ④航空会社に対するAPU使用時間の短縮に向けた働きかけ		●低騒音型航空機 ^{※1} 導入率81.5% ●GPU使用率 ^{※2} 94.0%	●低騒音型航空機の導入率90% ●ターミナルビル固定スポットにおける地上動力施設(GPU)使用率100%	●低騒音型航空機導入率90.7% ●GPU使用率85.7%	達成 未達成	「成田航空機騒音インデックス別国際線着陸料」の実施により、航空会社の低騒音型機の導入が進んだことにより、目標を上回る結果となった 駐機時間の短い便の増加に伴いGPU使用率が低下しており、目標を達成できなかった
		各航空会社	①低燃費航空機の導入 ②APUの使用抑制と地上動力施設(GPU)の使用						
	車両	NAA	①低公害車導入 ②空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ③エコドライブの推進 ④公共交通機関の利用促進策の検討・支援 ⑤低公害車での来場促進(電気自動車用充電設備の導入など) ⑥燃料電池自動車実証試験への協力など		●低公害車 ^{※3} 導入率35.8%	●業務用車両のうち低公害車の占める割合を2010年度比20ポイント向上	●低公害車導入率2010年度比23.5ポイント向上(59.3%)	達成	計画的な低公害車への更新を進めた結果、目標を上回る結果となった
		空港関連事業者(協議会)	①車両更新時の低公害車導入 ②空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ③エコドライブの推進 ④天然ガスタンクの運営		●低公害車導入率43.2%	●空港内車両(業務用車両、GSE車両)の低公害車率を2010年度比5ポイント向上	●低公害車導入率2010年度比4.1ポイント向上(47.3%)	未達成	エコ・エアポート推進協議会を中心として低公害車導入促進を進め、基準年度比4.1ポイントの増加となったものの、目標達成には至らなかった
	空港施設	NAA	①誘導路灯火へのLED灯火設置拡大 ②ターミナルビルなど空港内におけるLED照明の導入促進 ③省エネ法に基づくエネルギー管理、設備更新時の省エネルギー機器の導入 ④ターミナルビルにおけるBEMS ^{※4} を活用した省エネルギー対策 ⑤太陽光発電の設置拡大の検討 ⑥事務所における省エネルギー対策の実施(クールビズ・ウォームビズの実施など)		●誘導路灯火へのLED導入率33.8% ●空港施設 ^{※5} におけるエネルギー使用量20.8GJ/回	●誘導路灯火へのLED導入促進 ●空港施設におけるエネルギー使用量(発着回数1回あたり)を2010年度比15%削減	●誘導路灯火へのLED導入率56.5% ●空港施設におけるエネルギー使用量2010年度比27.4%削減(15.1GJ/回)	達成 達成	計画的なLEDへの更新を進めた結果、目標を上回る結果となった 計画期間中には第3ターミナルビルの供用開始など、エネルギー使用量の増加要因もあったが、省エネ機器への更新やエネルギー管理の合理化などにより、目標値を大幅に上回る結果となった
		空港関連事業者(協議会)	①施設及び設備更新時の省エネルギー施設及び機器の導入 ②事務所棟における省エネルギー対策の実施(LED照明の導入、照明の点灯時間の短縮など) ③クールビズ・ウォームビズの実施 ④高エネルギー効率の施設運営 ⑤廃棄物のサーマルリサイクル発電 ^{※6}		●空港施設におけるCO ₂ 排出量0.76tCO ₂ /回	●空港施設におけるCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比+2.6%に抑制	●空港施設におけるCO ₂ 排出量2010年度比0.1%削減(0.76tCO ₂ /回)	達成	電力のCO ₂ 排出係数が大きくなったものの、上記のとおりエネルギー使用量の削減が進んだため、目標を上回る結果となった

周辺環境への取り組み



取り組みテーマ・取り組み目標	対象	主体	取り組み項目		基準年度(2010年度)	目標(2015年度)	結果(2015年度)	基本計画(2011～2015年度)評価	
								達成	
騒音対策 騒防法に基づく区域指定の遵守 低騒音型航空機の導入率向上	航空機	NAA	①航空機騒音のモニタリングと結果の公表 ②低騒音型航空機の導入促進策(成田航空機騒音インデックスに基づく国際線着陸料金制度)の継続		●成田航空機騒音インデックスにおける低騒音型航空機導入率81.5%	●低騒音型航空機導入率90%	●成田航空機騒音インデックスにおける低騒音型航空機導入率90.7%	達成	「成田航空機騒音インデックス別国際線着陸料」の制度により、航空機の低騒音化が進み目標を上回る結果となった
		各航空会社	低騒音型航空機の導入						
大気質保全 大気汚染物質の削減(発着回数1回あたり)	空港全体	NAA	①航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを推進 ②空港周辺における大気質のモニタリングと結果の公表		●NOx排出量20.3kg/回	●航空機・車両・空港施設からのNOxの排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比15%削減	●NOx排出量2010年度比19.2%削減(16.4kg/回)	達成	新型航空機への更新、車両の低公害化、空港施設でのエネルギー使用量削減により、目標を上回る削減結果となった
		空港関連事業者(協議会)	航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを実施						
水質保全 雨水排水の水質維持	空港全体	NAA	空港周辺における水質のモニタリングと結果の公表		●雨水排水の水質維持	●雨水排水の水質維持	●雨水排水については上下の変動はあるものの例年の水質を維持	ほぼ達成	雨水排水については過年度に大腸菌群数で高めの傾向が見られたものの、その他の項目は下流河川に影響のない水質を維持。地下水については例年環境基準を満たす結果であった
		航空機	防除氷剤の適正処理(ディアISING廃液処理施設、バキュームスイーパーによる回収処理、排水の一時貯留池(ラグーン)の設置)		●地下水の水質維持	●地下水の水質維持	●地下水については環境基準を維持		
		各航空会社	防除氷剤の適正使用						

資源循環への取り組み



評価基準 達成：数値目標を達成したもの。定性的目標について総合的に達成したと評価できるもの。
ほぼ達成：数値目標を90%達成したもの。定性的目標について総合的に90%達成したと評価できるもの。
未達成：上記に達しなかったもの。

取り組みテーマ・取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	目標(2015年度)	結果(2015年度)	基本計画(2011～2015年度)評価	
節水・水循環 上水の使用量削減 (空港利用者1人あたり) 中水利用率の向上	空港施設	NAA	①中水利用率の向上 ②事務所ビルにおける節水対策の実施 ③旅客ターミナルビル公共スペースにおける節水対策の実施	●上水使用量 43.2ℓ/人 ●中水利用率 21.2%	●上水使用量（空港利用者1人あたり）を2010年度比10%削減 ●中水利用率25%	●上水使用量 2010年度比28.5%削減 (30.9ℓ/人) ●中水利用率 29.6%	達成	中水の増加、またセンサー式水栓や節水型トイレの導入などの節水対策により、上水使用量の削減が進み目標を上回る結果となった
		空港関連事業者 (協議会)	①自社が管理しているビルなどにおける節水対策の実施 ②業務上使用する水の節水対策				達成	中水製造施設的能力増強などにより、中水の供給量が増加し目標を上回る結果となった
廃棄物3R 廃棄物排出量の削減 (空港利用者1人あたり) 廃棄物のリサイクル率向上	空港施設	NAA	①旅客ターミナルビル、貨物地区テナント、NAA事務所などNAAの管理する施設における一般廃棄物排出量の削減及びリサイクル推進 ②NAA事務所における紙のリサイクル推進 ③グリーン購入の拡大 ④産業廃棄物のリサイクル	●一般廃棄物焼却量 0.48kg/人	●一般廃棄物焼却量（空港利用者1人あたり）を2010年度比3%削減	●一般廃棄物焼却量 2010年度比6.2%削減 (0.45kg/人)	達成	リサイクルの推進や廃棄物排出削減への取り組みの推進により、目標を上回る結果となった
	航空機 空港施設	空港関連事業者 (協議会)	①航空機取り下ろしゴミ（機内誌、機内サービスのビン、カン、ペットボトルなど）のリサイクル推進 ②産業廃棄物（貨物取扱におけるビニールラップや木製スキッド、機内食関連の調理くずなど）のリサイクル推進 ③紙のリサイクル推進 ④事務棟における一般廃棄物排出量の削減及びリサイクル推進	●廃棄物リサイクル率 24.7%	●廃棄物のリサイクル率を2010年度比3ポイント向上	●廃棄物リサイクル率 2010年度比 3.1ポイント向上 (27.8%)	達成	シュレッダー紙のリサイクルや液体分別用ゴミ箱の設置など様々な取り組みにより、目標を上回る結果となった

生物多様性への取り組み



取り組みテーマ・取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	目標(2015年度)	結果(2015年度)	基本計画(2011～2015年度)評価	
自然環境保全 生物多様性を育む 自然環境保全	NAA緑化施設 及び移転跡地	NAA	①自然環境の状況把握と保全 ②里山の景観の復元 ③グリーンポート エコ・アグリパークなどNAA緑化施設の環境保全・啓発活動への積極的な活用 ④移転跡地の適正な管理 ⑤地域農業の再生への支援	●生物多様性を育む自然環境の適切な保全と活用の実施	●生物多様性を育む自然環境の適切な保全と活用の実施	●空港周辺緑化施設の適正な管理とアグリパークの活用（エコキッズ・クラブ自然教室） ●移転跡地の適正管理と農地貸付の実施	達成	空港周辺緑化施設の適正な管理とグリーンポート エコ・アグリパークの活用、移転跡地の有効利用などの取り組みを実施
空港の拡張時等における自主的な環境影響評価の実施	成田国際空港 近接エリア (事業にともなう環境影響予測範囲)	NAA	①調査結果及び予測評価の公表 ②必要な環境保全措置の実施	●空港拡張時の空港周辺の自然環境への影響を最小限にする	●空港拡張時の空港周辺の自然環境への影響を最小限にする	●空港拡張後の自然環境調査と保全	達成	空港拡張時に自主的な環境アセスメントを実施

環境マネジメント



取り組みテーマ・取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	目標(2015年度)	結果(2015年度)	基本計画(2011～2015年度)評価	
環境マネジメント 成田国際空港全体での環境取り組みを推進するための環境マネジメントの実施	空港全体	NAA	①空港従業員への情報の発信・共有の活性化（Webサイトの活用など） ②協議会※7活動の牽引（委員会活動などを通じた環境保全活動の推進） ③NAAグループにおける環境マネジメント強化のための、推進体制の強化、環境教育・啓発活動の実施	●成田国際空港全体での環境保全活動の推進と牽引	●成田国際空港全体での環境保全活動の推進と牽引	●協議会事務局として、協議会・委員会活動を牽引	達成	エコ・エアポート推進協議会事務局として空港全体の環境保全活動を牽引
		空港関連事業者 (協議会)	①協議会メンバー内の情報共有（Webサイトの活用など） ②協議会活動への積極的参画（委員会活動などを通じた環境保全活動の推進） ③協議会メンバー、空港従業員への環境教育・啓発活動の実施（エコフェスタなど） ④エコ・エアポート基本計画に基づいた環境保全活動の実施	●成田国際空港全体での環境保全活動の実施	●成田国際空港全体での環境保全活動の実施	●エコフェスタやクリーンアップ運動の実施	達成	エコフェスタ、クリーンアップ運動、エコドライブキャンペーン等空港関連事業者が協力して環境保全活動を推進
ステークホルダーとのコミュニケーションの実施による環境保全活動の活性化	すべてのステークホルダー (地域コミュニティ、お客様、社会一般)	NAA 空港関連事業者 (協議会)	①環境情報の積極的な公開（Webサイト、環境報告書、冊子、映像、情報コーナーなど） ②コミュニケーションの活性化（環境展への出展、エコキッズ・クラブ、出張環境教室などの環境学習、地域イベントへの参加） ③環境教育、環境啓発活動の実施（及び実施協力）と従業員の積極的参加 ④先進的な環境情報発信の推進（ターミナルビルなどにおける環境情報の発信）	●成田国際空港における環境保全活動の理解・支持の向上	●成田国際空港における環境保全活動の理解・支持の向上	●環境報告書やWebサイトなどによる環境情報の公開 ●成田空港エコキッズ・クラブの開催、エコプロダクツへの出展	達成	環境報告書やWebサイトを活用した積極的な情報公開の実施、環境情報公開サイト「成田空港環境こみゅにてい」をリニューアル、成田空港エコキッズ・クラブを実施、エコプロダクツへの出展を通じてコミュニケーションの充実
国内外の空港との連携による環境保全活動の推進	国内外他空港	NAA	①国内主要空港環境連絡会議を活用した国内他空港との情報交換、連携した環境保全活動の推進 ②ACI活動への積極的な参加 ③海外空港との情報交換	●成田国際空港における環境保全活動の推進 ●空港・航空業界の環境保全活動を牽引	●成田国際空港における環境保全活動の推進 ●空港・航空業界の環境保全活動を牽引	●ACI活動への参加や海外空港との人事交流・情報交換を実施 ●国内主要空港環境連絡会議による情報交換の実施	ほぼ達成	ACI活動への参加や海外空港との人事交流・情報交換を実施 国内主要空港環境連絡会議での情報交換を実施 今後は、さらに積極的な情報交換と連携の強化を図り取り組みを進めていく